

宮本常一記念館

## 特別展示

### 「周防大島とハワイ —移民たちの足跡—」

を開催しました



本年3月15日～5月9日の期間、国立歴史民俗博物館、国立国語研究所との共催で、周防大島から海をわたった移民の歴史を紹介する企画展示を宮本常一記念館で開催しました。

共催者の原山浩介、朝日祥之両先生の協力を得て、移民の歴史の全体像を振り返りながら、周防大島から渡航した人たちの人となりが見えるような展示パネルを制作しました。パネルではハワイとの交流の歴史、町内に残る移民の人たちが寄付した神社の石造物なども紹介しました。

さらに町民の方から寄贈された手紙や生活道具も展示して、コンパクトながらも充実した展示となりました。

来場者の方からは「故郷がハワイと深くつながっていることを知った」「海外に暮らす親類を懐かしく思った」「祖父母たちが移民した話を思い出した」など感想をいただきました。

なお、展示したパネルは、今後の公民館などの公共施設での展示を実施予定です。  
(高木)

#### 【パネル巡回展示予定】

・大島文化センターロビー（周防大島町小松）…令和3年6月15日～同8月1日

※久賀総合センター、橘総合センターでも展示を計画中で、期間が決まり次第、広報等でお知らせします。

## 満開の

### サクランボ摘みつつ レイを編む



日本ハワイ移民資料館

3月27日、「サクランボの日」に日本ハワイ移民資料館にて桜のレイ作りを行い、町内外の6名に参加いただきました。

日和もよく、資料館の桜も満開。花弁を摘むところから始め、ハランの葉で桜を三つ編みにしました。桜の花は命が短く、レイを編んでも綺麗な状態は、その日しか持ちません。だから、レイを作っている時、そして身につけている時、花の命が一番輝く時間を大事にすることができそうです。

参加者は古民家での和やかな雰囲気の中で、思い思いの会話を楽しみながら、桜でレイを作りました。レイを編んだ後は、地元の子が他の参加者のためにフラを踊ってくれました。

島外から参加してくださったグループは、その日一日大島観光の間レイを身につけてくださったそうです。

春の風を感じながら移民資料館で過ごす時間はとても贅沢でした。ご参加くださった皆様ありがとうございました。（西田）



# 久賀の◆◆ なむでん踊展 ◆◆開催中◆◆

八幡生涯学習のむら

なむでん踊は久賀に伝わる虫送りの行事です。虫送りは、田植えの後稲を害虫や病気から守り五穀豊穡を祈るもので、江戸時代後期、神屋寺（現久屋寺）の住職が節回しを考案し、芸術的に深化したといわれます。昭和51年に県の無形民俗文化財に指定され、現在では保存会が中心となって伝承しています。この活動が評価され、なむでん踊保存会は令和2年度地域文

化功労者表彰を受賞しました。これを記念して「なむでん踊り展」を開催いたします。ぜひこの機会に地域に伝わる伝統芸能をご覧ください。

【期間】令和3年4月13日（火）～7月4日（日）9時～16時/入場無料

【休館日】月曜（祝日の場合はその翌日）

【場所】八幡生涯学習のむら 学びの間

【問い合わせ】0820・72・2601

◆なむでん踊の奉納について

今年は新しいメンバーも加えてご披露いたします。

【日時】6月26日（土）

【時間】14時から久屋寺で入魂式後各会場を巡回

【場所】久屋寺↓八幡生涯学習のむら↓久賀農協前↑追原公園

※状況によりルートを変更します。町広報などをご確認ください。

【問い合わせ】0820・72・2601



# 光触媒コーティング

抗ウイルス・抗菌効果のある光触媒コーティングの施工を行いました対象の施設は体育館受付、トレーニングルーム、1階女子トイレ、多目的トイレ、男子トイレになります。

光触媒とは、「防臭」「抗菌」「防カビ」「抗ウイルス」の効果を發揮する素材で、化粧品や薬の増量・成型剤にも使用されている体にも安全な酸化チタンが主原料となっております。それにより、天井や壁など光が当たると

びに4つの分解除去効果が塗布面を強く洗い流し、拭き取らない限り半永久的に發揮するとされています。

本施設では、既に実施しているアルコール消毒液の設置や定期的



光触媒コーティング 施工証明書

光触媒コーティング施工証明書 (Dr.OHNO) は、光触媒による抗菌・防臭・防カビ・抗ウイルス効果を発揮します。

ISSUE INFORMATION

施工場所 周防大島町能上競技場・総合体育館

ご住所 山口県大島郡周防大島町大字西方1908-77

施工日 2021年2月24日 塗料 コーティング剤 「Dr.OHNO V」

施工店 MIYAKE 株式会社 周防大島支店

塗料 Dr. OHNO

な換気などの感染症対策を行っております。これと合わせて、引き続きお客様にとって安全・安心な環境をご提供して参ります。

皆様のご利用をお待ちしております。(中村)



## 宮本常一チャンネル

登録者1000人  
動画配信100本

宮本常一記念館

2020年8月に無料動画サイトYouTubeで配信をスタートした「宮本常一チャンネル」は、

この度チャンネル登録者数が1000人を突破しました。文化系の配信にもかかわらず、9ヶ月ほどで1000人の方に登録してもらっているのは稀有なことだそうです。これも撮影に協力して下さい方、また各種メディアで紹介していただいた方、そして応援してくれる視聴者の皆さんのおかげだと

思います。

これまでに、宮本常一の人物像や著作の紹介、記念館や八幡生涯学習のむらの収蔵品や町内各地にある文化財の紹介、地域で文化活動に携わるみなさんのインタビューなど、配信動画数も100本に達しました。

視聴者の方からは、「宮本常一さんの業績がよくわかった」「いままで身近にあった文化財を知った」などのコメントをいただきました。また「もっと周防大島の幕末の史跡を配信してほしい」「町内にある彫刻物も紹介してほしいか」などのアイデアもいただいています。

現在は、本年3月末まで開催し



ていた没後40年企画展示「宮本常一の読書」を解説する動画も配信しています。皆さんが興味を持てる本も紹介しているかもしれませんので、ぜひご視聴ください。無料で視聴できますので、インターネットで「宮本常一チャンネル」と検索してみてください。(高木)

## イベントひろば

### 八幡生涯学習のむら

#### 表具講座



好評いただいております表具講座

を今期も開催します。講師に表具の歴史や技術、日本建築などについて解説していただきながら掛軸を実際に作成していく講座です。自分で表装する楽しさを感じることができ、表具の見方を学ぶことができます。材料は講師が用意いたしますので、初心者の方もお気軽に参加できます。

- 【日程】 5月8日(土)、5月9日(日)、5月16日(日)、5月23日(日)、5月30日(日)、6月6日(日)
- 【時間】 13時半～16時半
- 【参加費】 5000円(表装材料費)
- 【場所】 八幡生涯学習のむら
- 【語り手の間】
- 【講師】 金本豊
- (表具工指導員・一級技能士)
- 【問い合わせ】
- 0820・72・2601

## 宮本常一記念館

### 書籍出版

この度、①『宮本常一ふるさと選書・古老たちの人生を聞く』(みずのわ出版、1320円)、②『宮本常一農漁村採訪録23 下北調査ノート(2)』(1000円)の2冊を刊行しました。①は宮本が周防大島の古老からの聞き書きをまとめた著作で、②は青森県での調査記録です。宮本民俗学を実感できる著作で、館内で販売しております。

#### 【お問い合わせ】

0820・78・2514

古老の人生を聞く



牛の体から汚れや抜けた毛を取り除くために使われた。手入れをすることで人との信頼関係ができ、牛もリラックスメしてすごせた。背中など牛が自分で届かない所にクシをかけると気持ちよさそうにしていた。

平地が少ない周防大島では山の斜面を切り開き「耕して天に至る」といわれるほど多くの棚田が作られた。牛はこの棚田での農作業で人とともに働くパートナーだった。牛を使うと人力よりも深く、早く耕すことができる。江戸時代には本百姓は必ず牛を持っていた。明治44年の久賀町の生産調査では農家戸数890戸、牛の飼育数は389頭と約半数の農家が牛を飼っていた。この飼育割合は昭和20年代末では農家戸数880戸、飼育頭数466頭と明治時代よりも増えており、なお増加傾向にあった。牛



がかわらず貴重な労働力であったことがわかる。山の田畑へ通う道は急で細く、機械を入れるよりも牛が便利だったのだ。牛のいない農家は一反いくらの「賃すき」で牛を飼っている人に頼んだ。林業の場では材木の端にカンを打ち込みこれに縄をつけて牛に曳かせ山から出した。

農家では牛を大事にした。田植え後に行われる虫送り行事なむでん踊の日は農作業を休みコムギダンゴを作って一番に牛に食べさせた。また、旧六月晦日のサバライは牛の節句ともいい、牛や馬のいる家は未明に海へ連れて行って潮でよく洗い、帰ってからはやはりコムギダンゴを食べさせた。旧暦の六月晦日は現在の暦では7月末から8月初めにあたる。田植えが終わわり一連の農作業の疲れをねぎらい、残暑に備えたのであろう。牛は厳しい労働を共にする仲間であり家族の一

員だったのである。

クシのほかは牛への思いが表れている用具に牛用のワラジがある。荷を負い、あるいは重い道具を曳いてくれる牛が石を踏んでも痛くないようにワラジをはかせたのだ。牛を売る際には新しいワラジを履かせて送り出したという話も伝わるといふ。(古賀)

### 一枚の古写真

## 「新しい道ができる」

「そうそう、昭和40年頃。真つすぐな道が出来たんはこの頃。それまでは狭い中道をバスが通り



【写真=周防大島長崎 1962年11月 宮本常一撮影】

よったけえ、昔の人は運転が上手だったよねえ」と、この写真を手にしたお年寄りが話してくれた。周防大島東部では1960年頃から海岸道路の整備が進み、渚を埋立ていった。1962年11月、帰郷した民俗学者の宮本常一(周防大島長崎生)は慣れ親しんだ風景が変わりゆく様子を記録している。

宮本は、生活道路としての車が通れるように、またミカンを島外へ搬出するため、道路整備は絶対に必要だと考えていた。一方で少年時代に友人たちと遊んだ海が埋め立てられることには一抹の寂しさを覚えていた。

写真には防波堤に佇む老人が写っている。海を見ながら過ぎし日に思いを馳せているようで、宮本はその姿に自分を重ねてシャッターを切ったのかもしれない。現在は埋立がさらに進み、人々が行き交う車道となっている。(高木)

## □□ナ対策

※本誌掲載の各種情報は新型コロナウイルス感染症の影響で変更になる場合があります。必ず主催者へお問い合わせください。